



家保通信

平成18年度 11月号
熊本県天草家畜保健衛生所

TEL 0969-22-3668

FAX 0969-24-4393

e-mail amakusakaho@pref.kumamoto.lg.jp

<http://www.pref.kumamoto.jp/construction/section/kaho/amakusa/amakusa-index.htm>

「子牛の肺炎について」

年の瀬も迫り、朝晩の冷え込みがますます厳しくなってきました。これからの時期は、下痢や呼吸器病の感染がおこりやすく、子牛を管理する上で、特に注意が必要となります。

牛の呼吸器病

例年、冬期には哺育育成子牛の呼吸器病が増えています。家保での病性鑑定では、原因菌として、**パスツレラ**、**マイコプラズマ**などが分離されています。原因菌が**多剤耐性**を示す場合もあり、薬剤での治療が難しく、慢性の重篤な肺炎を引き起こすこともあります。また、人工哺育による多頭飼育の牛舎において、感染がまん延するケースも見られています。

症状

呼吸器病が発生する要因としては、アンモニア（畜舎の清掃・換気が不十分）や塵埃などによって気管の粘膜が痛み、病原体に感染しやすくなること、病原体が存在することが挙げられます。



対策

感染予防のためには、**畜舎の清掃・消毒**を十分に行うことが重要となります。また、感染予防対策として、子牛に十分な抗体を持たせることも有効です。生後1ヶ月以内の子牛は、抗体を初乳からの移行抗体に依存しています。そのため、子牛に初乳を確実に飲ませるようにしてください。初乳は、生後6時間以内に飲ませることが効果的です。生後1ヶ月以降は、必要に応じたワクチネーションを行い、抗体価を上げておくことが望まれます。

～予防ポイント～

- ・ 牛舎の**清掃と消毒**を定期的に行い、衛生的な環境に努めてください。
(環境については飼養衛生管理基準に沿った管理を徹底して下さい。飼養衛生管理基準については家保通信8月号にて掲載しています。)
- ・ 確実に**初乳**を飲ませるようにしてください。
- ・ 子牛の状態をよく観察し、異常牛を見つけたら、獣医師に早く診せて、**隔離**して飼育するようにしてください。
- ・ 哺乳器具を介して感染がまん延する可能性もあることから、**哺乳器具の洗浄と消毒**を十分に行ってください。
- ・ **素牛を導入**する場合には、可能な限り2週間程度隔離飼育し、異常のないことを確認した上で、他の群と接触するようにしてください。

ご不明な点は、家畜保健衛生所までご相談ください。